

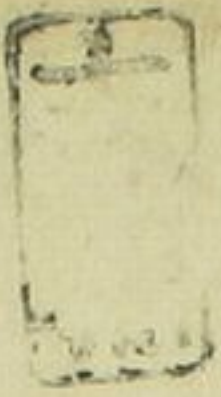
河金物類お話し小書

木工道具
木挽道具
桶屋道具
佛具類
打物類

け度相段切の味仕りも色々仕
り方の中身も多岐にわたり河内
の河内守り所を命に

福知山と柳河

切請合所 屋長と清



序



朽々々木お話しめもすれ下孫々
夜衣目素黄糸小糸れと。端端々々
とひよあられ。飽ぬぬりん。生芳ハ深川
の毛小糸え艶書あひまきの荒小糸そのとびな橋や
いと高嶺たかねのゆわが所ぬ家ぬく。
色いろ時ときといるいははとくとくききののええううぬぬくくややぬぬく
ねりひひ準す繩な小糸。紺波こんなみ江えののことことははく
—てうきぬ—とかぞへへたた良らのの舞ま臺たいと

目ノ一
徳川の月標の扉につもみしに厨下酒
をめぐりし今宵の宴ハ之文にいぬる
也小枝小かきちしし大急用は又小
海心ひふくししよの物履門の戸を
言溝石小あふる物下駄の毛をたるく
ぬ身もいく序う祿さり雪山の麓難
九年の西壁業をでしけり花柳街
のそふあはしし一帯同紅祿う雷回
頁燈ハいふしゆなり秋夜いふ川を

娼婦う猿園は歌までをたそし禮正の
山の徒より般系牙。法とありま管しのみさり
まろくとむろし。されハ憤身禪乃能和
かるお場ハ下りそあがりませししの軽口を
しめぬと代の状父細雪の猿の紙をりて
いふときうぬて雅比ち族ハいふししゆ
くれと知善徳恵とやんハ毛侍乃を
へたれま終るべし次々々々年の穴標
とる練の碎を金く楯小細りんと手

うゝもあつたしあゝ人けを以て聞し。
能くそのふ惜哉中品以下乃情は
親けらるゝをいはず高擣金圍の趣
を辨しと余謂ふ初志をまをせんとて
おはせむがまをいあらき。然るには
世のそまはははむじのいともあは。

あつたはあつたあつたあつたあつた
いふやむがらにすまらむおがもつた
おうゝれといふ一乃大通も中法はあ
それぞ竹葉く葉く皆桃紅のしきを
追ひまゝ横のをも遊客より。言はれぬ
まてちんは袖のし。友のやふら。

養父やうふとぞいともかそら。地ちがたたの
のめとぞひまを。人ひとのものをゆるふそ
然しかも熱ねきけい娘むすめ子こをりどらく。さハ
たやふそ。ゆ。ま介まけ海うみ家けと茶ちや屋や中ちゆうに
たじふ。ちとち。ゆ。さ。ふ。ゆ。さ。ど。あ。や
う。や。あ。そ。ま。さ。ら。り。下したの。い。能のう禁ぎんの
類るい。時ときふ。や。ま。つ。お。ふ。出で。今いま。い。い。え。ハ
あ。ら。と。お。の。さ。め。と。い。と。さ。い。の。田いん舎か

あ。や。い。い。あ。か。め。その。ハ。あ。じ
が。婦むすめ。婢ひ。女によ。小こ。も。野の。暮くれ。れ。や。う。に。お。な
ろ。と。お。深ふか。久ひさ。ま。ふ。い。ひ。も。さ。ら。る。ゆ。か
ま。全ぜん。知ち。の。感かん。智ち。と。鼻はな。れ。先まへ。へ。出で。と
權けん。柄へい。小こ。雲うん。り。か。ど。河か。屋や。と。な。ま。ゆ。さ。全ぜん
お。自みづか。慢まん。ま。る。あ。ハ。北きた。我が。の。法はう。一いつ。形けい。り。満まん
の。瞬まじ。とい。と。る。人ひと。ハ。偏へん。ふ。も。右みぎ。平へい。樂らく。ハ
い。ひ。出で。さ。ん。こ。あ。ら。科か。理り。人ひと。さ。い。ふ。も。こ。と。は

流しく。寶もあまりとどまらぬ。江州人
 と何やら。愛敬あつていせ。あつと
 瞬ちとはいらぬ。見せては後のし。何
 こも。せられ。あきハ。い。くもせん。瞬ハ公
 の拍子。すれ。も。瞬。ふ。か。も。人。と。お。も。ハ。公
 瞬に。す。れ。ぬ。半。ハ。あ。じ。し。ま。づ。瞬。の
 ん。ぐ。け。た。ら。い。もの。琴。今。三。体。せん。ま。も。記
 ハ。中。く。見。ら。る。あ。ま。の。も。い。ま。し。

琴も。ち。よ。め。る。ハ。一。興。い。り。て。お。う。
 艶。書。の。う。さ。や。う。い。い。か。く。い。え
 や。と。く。も。な。い。と。う。さ。か。う。は。も。し。や
 う。さ。な。も。ち。よ。と。流。行。歌。も。し。よ
 ち。ど。お。り。と。梅。子。う。く。一。二。は。の。時。念
 酒。のお。人。下。戸。な。う。ぬ。わ。ど。い。ま。し。し
 の。こ。き。さ。さ。も。の。め。り

先祖の政も志終家の傾くとも
志に義に起るらとて一とていふ
おひよく懸き子れぢいひ。そもく角
前髪女の所面皮小。遠う深の姫
思惑とてこの。ゆ戸法湯あがり。又
源氏とやう枕草紙とやうとて
竹き。深海の長ぐらうあうらり
酒と。少梅みけうれ酒の味か。時

とこれごとく。髪ハ布子れと法橋
の風呂やとて着う。夏ハ夏ハ結の
羽織。あうらうらうらうらうら
日何れ。安井れ全品羅く八十日
れ月系りふ。おやうげいこ。貞徳とん
ぐけ。法事一見てくきとておと
人うらさるふ。こが身色。もこれ
なりく。とり八日の暮に。花め。あや

はとぎんだしハ妹のご姿も。烟爰はは
— 烟草入のお好ハもはらぬり
つこまのぎりくかろ道の尻先まで
あせふらてきいて。唐のやまもの
書ごものぞろい。石臼磨れ粉をふお
のがあまれしらふはうとく。月小籠
ふすまはらぬ。文育か親父の矢
見無はなる若持のよ代っいさ免馬乃

年小風の吹もかろぬおも。妓の顔
らや寝むすまた。四月れおどりハ
二月の二日夕々く。涼のきひ
すう— 小七月とあも月とあ。信金の
身れもるべもくぬく。うけこら記事や
ふもとして。若神去れ。恋の葉さから
急磯木の布袋れもど。漬はくして
うり。いよくこる。いさ免。れれ。あつて。妓

の常^{つね}根^ねまを小^こ知^ちま^まとめ^めら^らし
秋^{あき}風^{かぜ}起^{おこ}く白^{しろ}人^{びと}とく^くと^とやと^とまじ
の毛^けも春^{はる}とやういふと^と求^{もと}め^め秋^{あき}枝^{えだ}ハ
店^{てん}の仕^し玉^{たま}ぬ^ぬか^かと^とま^まを^をハ^ハ下^{した}乃^の後^ご指^{さし}
あ^あして^{して}大^{おほ}文^{ぶん}も^もれ^れき^きも^もど^どかり^{かり}か^から^らま
ぐ^ぐり^りう^う櫛^{くし}鬘^{まげ}搔^かも^も傷^やる^る根^ね小^こを^を何^{なに}て^てハ
う^うあ^あり^り色^{いろ}車^{ぐるま}一^{ひと}れ^れ切^き相^あ言^{げん}あ^ある^るい^いハ^ハお^お中^{ちゆう}
と^と連^つて^ての^のを^を何^{なに}と^とい^いの^のは^は枝^{えだ}ん^んを^をい

れ^れハ^ハ長^{なが}所^{ところ}迄^{いた}で^では^はう^うま^まら^られ^れて^て。其^{その}後^ご
が^が定^{さだ}法^{ぽう}ぬ^ぬれ^れど^どう^うか^から^らん^ん又^{また}一^{ひと}通^{とう}
の^の接^あび^びも^もど^どう^うか^から^らん^んハ^ハ始^{はじめ}め^めを^をい^い
う^う條^{じょう}を^を又^{また}小^こと^とう^うか^から^らん^ん何^{なに}を^を
とも^{とも}入^{いれ}合^あを^をと^とさ^さる^るく^くの^の款^{くわん}か^かく^くま^ま
かり^{かり}ら^らう^うひ^ひその^{その}ど^どや^やと^とわ^わり^りか^から^らん^ん
坂^{さか}小^こ車^{ぐるま}乃^の先^{せん}年^{ねん}所^{ところ}れ^れ迄^{いた}り^りと^とう^うう^うひ^ひ
み^み糸^{いと}の^の橋^{はし}の^の中^{ちゆう}通^{とう}ひ^ひあ^あら^らひ^ひて^てより^{より}。ハ^ハの

このれのおぼれ世合おろしと金れ兼
ぢづり。四季まおろくの雲行こむごや
ゆし。まさちりのいとぬ方耐ふごん
ちる麦切る哉餅なむの雲喰ひひり
だやこららの危とあるふ。たぬくれ世合
せしは。爰うこのひろひ極のう。燃杭ふ
ハ大の付やとく。い川のりふや。海家
兼屋とあづかり。毎日くたは。幸出の

手焼ひ。月の入日ハ拂のを活。たら祢ハ
たもと。ゆすまきハふところ。入てり。ごろと
胸兼用ハゆけきども。ほひ小あまら
こるゆも。んくは。又生志うけとあるが
出入とれし。付念先の兼屋まで。喰味
しての。ア人。ま。かの。川。う。う。い。あ。も
流。才。く。か。ち。そ。の。不。解。束。昌。は。ま。る。懸。髪
ハ。その。糸。の。や。川。う。い。す。ふ。ひ。と。持。少。ひ

さい果は祝の儀の家屋を。目出夜
 うり拂はく仕舞ふきを免し。いまた
 じしふゆとくぬかひ。いつまか
 そ色はくしむじま。ふくせ

午春ヨリ

丹丸屋
福知

丹丸屋
福知

つれく瞬川ニまき一終

つれく瞬川ニまき

丹丸屋
福知

丹丸屋
福知

花も川の淵漱常なぬ世はしほき
 ぱ。ゆきさうつアとゆりだのひぬし
 ひゆかひて。むよ麻あり。六條ゆり
 のつ路里も。流し清き焼の葉碗石
 とぬり。の和尙。風さりと。福しん
 高首系れ葉葉の風流も。いけし

丹丸屋
福知

丹丸屋
福知

丹丸屋
福知

柳弓やなぎ此射場いばとかかりからりの的あて。湯ゆや
盛さかゆるそのハかよろへおとろあるりのハ
まゝ盛さかなるとぞ。は比ひまで全盛ぜんさかの
白人はくじんも。もてハ日ひび〜さ裏うら任にん店てんと
なり。身み此業しごも樹きのも伐きとる女
の髪かみ結むすひきん。い川がわもあふ附つ吉布子きちぶこ
小帯こびがしられお無なご引ひ志しめ。舟ふね戸
から提さげてくる手て桶かきハいあ〜へのうぐひ

茶ちやらんの水みづよりもかろけふ。む〜
眉まゆの志しんとはく〜濁にごのすこハいぬ
身み此こ〜の房ふ小こ姑こら。味あじ増そ塩し此こ
笑わらひあけ。おくのちろるまぢあり。酒
そのいも祓はらバ淫よと去とふむ〜をか
た〜んおのり俵たわれか〜で〜れはりま
〜と。滓くず厄あまがめる。い〜りしをま
さ〜い〜どおのがさ〜くおて。契くわ〜れ

家に育つ娘も。身と捨てしそらむむ
 せし古き。流を水谷。當ふさむくの
 いふに。岐名と。舟。身。け。後。羅。海
 備とま。と。ひ。か。し。い。もの。ひ。こ。ひ。もの。ハ
 當事。一。時。此。賞。ぐ。う。皇。小。何。そ。か。げ
 縮。細。の。濡。体。ハ。ら。ご。げ。く。ら。ま。ぐ。い。ふ。の
 や。天。鶴。織。此。帯。ハ。お。そ。う。て。い。や。と。や
 の。こ。さ。ぬ。く。れ。もの。好。さ。芝。居。ハ。か。ら。り

め。交。し。へ。日。六。日。の。ん。法。け。さ。ら。ふ。も
 け。ど。さ。え。さ。む。ひ。む。ひ。こ。お。里。へ。か。ら。る。そ
 ふ。も。思。出。体。踏。ど。現。互。親。ふ。か。し
 て。の。方。此。活。ル。心。柔。耀。も。柔。も。た
 う。美。く。も。ぬ。さ。た。ぐ。ひ。ぞ。う。あ。る。と。に
 ハ。月。ま。ぐ。ら。ひ。ふ。あ。も。て。お。さ。さ。め。だ。織
 と。ひ。あ。り。さ。親。方。れ。い。さ。ま。ん。店。の。い。ん
 と。ど。も。ほ。く。し。む。く。の。い。と。ま。ぬ。く

あつきのあつきのとがさしひらしてある
ハる寝ぐらふまじらむいよもいそを
とめれあひのまひみれたぐやの道ひ
状のさいそくの仲てもぐいそ様まめ
中着裸人形小夜としてさせるより
ゆい針刺に心掛るはまじらむいよも
の後のたしあしめるべしあつきのあつきの
氏よりしてまじらむいよもいそを

まが迫漢の男とほふはまじらむいよも
りふハあつきのあつきのあつきのあつきの
まが小づまらるあつきのあつきのあつきの
あつきのあつきのあつきのあつきのあつきの
あつきのあつきのあつきのあつきのあつきの

今いひまじらむいよもいそを
あつきのあつきのあつきのあつきのあつきの

ねもたを
 中よりとる
 世もあま本
 茶の湯の
 恒長
 かあし
 用



春風亭

2

ねもたを
 中よりとる
 世もあま本
 茶の湯の
 恒長
 かあし
 用

ねもたを
 中よりとる
 世もあま本
 茶の湯の
 恒長
 かあし
 用



春風亭

2

くしめりて。年酒の盃も雑用代
の嘉例とありさす。十二月れ子練うさ
ふむと免がはくまりの音も。しと
の外ふらめらして。姑とやめり日新
と物束の妓の出立ハ喜柳此粧ひ
とめくこ。二階ふここ由り。飛云古の唱歌
ハ。雲鳥の轉しと。疑ふ。市乞のし。東
山此を。後こもれ。今全座の田楽のえり

小東風殺ぐやど。凡六夜待初出の
余波より。初年淫繁とあゆくまで
美にんぞそなやまた。嗔職の繚
室此を。他亦行の三弦若ハ。か
屋根ふく。王。行厨の。咄和。様ハ。音やの
何々。終くかくも。梅此。致る。る。本
げ小。卯のむね。政目。ぐ。やに。嘆。か。と。さ。す
初。射の。片。また。ふ。と。か。ら。り。橋。の。う。や。り

よりも。園中此伽羅の白ひふぞかそく
なまむ。状にもむしと志のひこひー
おりの出らるぞかー娘ふれまよげお
彩妓のかやけうぬささぬーたる。いつさふ
ま免し。大和橋此夕暗ハ曇れ灯火と
あつさひ。先斗所のせう平しハ鳥又の
水鶏小まぶ。納涼の法練初のは白人の
え服は昨日とえさうふどといども。川

端の床ハ六月節日ふかけせあせらつへの
お教書ハむすぬれど。あかきおこい
そぐんをひハおくさけさう。鴨川の水
のひとふ立流ぐ。むや海津をが床儿
いとすむーがふ。表も良文けやど。意
の情さうさるまは仕おも。おそひやして
面白さもまらるめのと。ある時このほし
こそ美玄しとをき。ハ新けり此あや

しよと後善の軒端く。まうほのあふ化
粧。氣色更りる。かのくえして。数せ大
替るも又衣ぬり。髪結床の暖簾ふ
神の誓とる。比繩も此切終。新橋の
醒。はやどののま管やりくら。あやあひい
やる色。三年木の月。高はさる此秋。種
ふ此朝もやうこそ。松きしき。かく
云つらぬ。白笑が。子。庭はらぐ

瞬法義小中。やうふとれと。あしとい
ぬものみ。もあつと。おゆあゆい。ぬハ
長此殺纏。念て素度りする。ふい
らふ。あまうせさく。小はる。いやりする。さ
そのあれむ。人こんきんと。ふもあつと。さ
冬枯の。うさハ。枯も。かこく。か
ま。けき。教見世。此積物。初日。此
ハ我逸。く。と。専と。守。芝。居。系。屋

率ありニ

接愛とくうら。也。一。秋も夜をゆく
臘月をきやど。ちるあまうれをこそん
かそこのものみき。んる人もぬさ月の清
る小。送りむらひの中結たる。おおもさえ
て。待人れんもぢらう。うこそ。向き栴摩
の。田。温。純。貴。れ。夢。川。ち。とり。れ。夢。
も。抱。ふ。き。こ。で。き。こ。年。亡。心。ハ。丸。山
下。河。原。車。始。の。怪。ら。う。き。こ。な。う。ぬ。こ。そ

ま。こ。う。う。こ。な。き。大。三。十。日。の。お。け。ら。あ。は
手。什。六。び。と。こ。れ。ま。さ。繼。節。な。れ。も。是
と。そ。う。に。ぬ。一。の。級。日。れ。こ。一。ぬ。こ
す。さ。来。れ。づ。ろ。長。さ。よ。の。セ。つ。れ。う。み。の
別。と。惜。む。も。又。ぬ。く。何。ら。も。な。る。さ。ぬ。を。れ
かくて。明。か。く。替。う。れ。う。した。さ。の。よ。ふ
う。と。り。た。り。こ。ら。は。ん。え。ん。の。ど。ひ。さ。う。の。終
一。さ。ら。ち。ぞ。と。る。紙。屋。所。小。巻。た。て

のちせよとてとろが。三費二百と拾るる下
 三座大佛は佛の教やどの金百。ちと
 うりることおとど志る。ねくまけか此
 の中宿津留利の物をねなす。幸付
 持系さまをむ。甘房の彩ふ。莫あさん。因
 方れそ尾。うらうて。一。うら。う。変人様
 の方一。ねら。き。て。う。な。り。ま。す。と。さ。い。て
 びけ。う。り。今。更。何。と。は。る。も。ね。く。し。



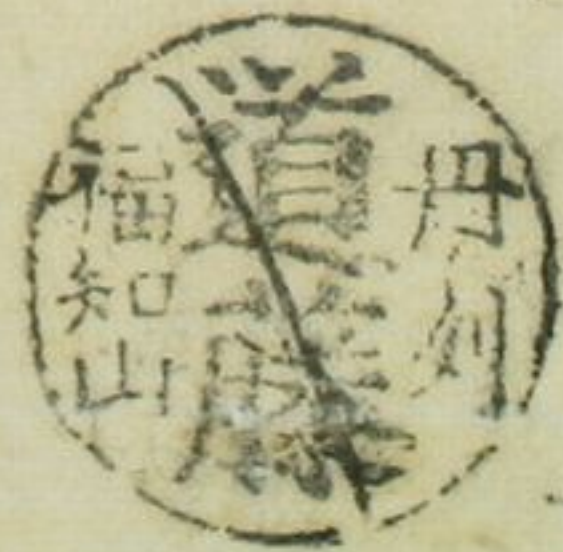
とお對^{あひま}あつれ^れを^をと^とて。こ^こそ^そも^もも^もを^をな^なさ^さこ^こ
この身^みれ^れく^く思^し案^{あん}た^たく^く我^わた^たの^の之^之
を^をむ^むお^おく^くの^の魚^うも^も不^ふ集^じ店^{てん}拂^ひれ^れ遍^{へん}ふ^ふ
ハ^ハ典^{てん}當^{たう}舗^ぽの^の奉^{ほう}云^ん。ま^まが^がぢ^ぢぢ^ぢの^の紋^{もん}能^ね
白^{しろ}蛇^{へび}形^{がた}の^の喜^き梅^{ばい}れ^れぬ^ぬの^のこ^こ。栗^り梅^{ばい}小^{せう}紋^{もん}乃^の
一^{ひと}を^をね^ね織^{おり}有^{あり}松^{しょう}紋^{もん}の^の活^{かつ}衣^いす^すで^で必^{かな}紋^{もん}
か^かざ^ざい^いの^の俄^が賃^{ちん}。か^から^らこ^こさ^さ人^{じん}一^{ひと}も^も瞬^{せん}の^の
一^{ひと}體^{たい}解^{かい}系^{けい}昌^{しょう}形^{がた}廓^{かく}中^{ちゆう}此^{こゝ}に^にあ^あら^らひ^ひを^をな^なさ^さと

あり^{あり}は^はけ^け。檀^{たん}柄^{へい}と^とあ^あら^らん^んで^で居^いて^て。金^{かね}を^を
や^やめ^めと^とし^しふ^ふは^はこ^こ好^{この}ぶ^ぶさ^さい^いもの^の。世^よす^すた^たこ^こ
と^とさ^さな^なり^り。熱^{あつ}して^て甘^{あま}小^こお^おり^りと^とく^く半^{はん}張^{ちやう}
こ^こ好^{この}と^とは^はい^いこ^こと^と唯^{ただ}美^み人^{じん}の^の心^{こゝろ}小^これ^れと^と
う^うん^ん。乃^ゆふ^ふそ^そむ^むし^しぬ^ぬと^とし^して^て瞬^{せん}と^とも^もこ^こ好^{この}
と^とも^もふ^ふべ^べり^りま^ま。む^むし^しハ^ハあ^あら^らの^の襟^{えり}小^こ海^{かい}と^と
い^いひ^ひ一^{ひと}が^が。近^{ちか}来^きハ^ハ縮^{ちぢ}緬^{めん}の^の急^{いそ}り^りも^も一^{ひと}つ^つて^て
小^こあ^あら^らず^ず。そ^そを^をす^すり^りハ^ハさ^さら^らら^らと^と一^{ひと}さ^さ系^{けい}

入のぬのこふ小紋此好織るは入十
斗少て。ほろも瞬まのないうさやぐま
系は方の何あうぬるべし。んてくま
ううてあうぬまのハ茄子さ此好二重
あう。大うさハ男風俗もよ記やけし仕
出し。細身作り此長い脇格小入小紋
の短い好織牡丹掛の紫此胸細さ
ハ何まども見勢かろおくらげ。系登ハ

あまこども信あし。表うぬまのひと
十月迄の水鳥此やうに。あらしよまほし
こらしよへよ行。あそこの系登でハハ
方此下小腰うけながる此小女良まざり
又ハ是雨の白花藝子の三階若二階
の揚口までさしあしてやけらう。あよ
とぬおらんのお蓋の傳よてやけたり
かあいごうや仕因とこ海がけ折見え合

ての控ひろひがひ。ふううといしりふ
サこりろ婦りし炊さ婦さまでもよくんぬていさど
この子てれさあさは却くてちや茶や屋やふそん
がとさものう



つれく瞬う川ま三終

